

# 令和3年度 保育園の自己評価

## テーマ「子どもの視点に立つ保育」

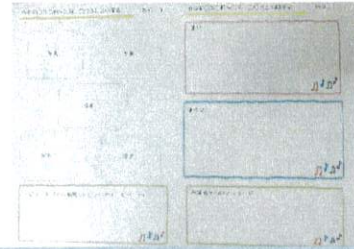
令和4年8月1日  
社会福祉法人 翔福社会  
かりゆし保育園  
園長 喜屋武 恵子

### ○当園が目指す保育とは？

- ・日々の子どもの姿から、保育者同士で語り合い翌日の保育を紡ぎだすことだと考えます。(日々の生活の重視)

### ○その保育を実現するための課題

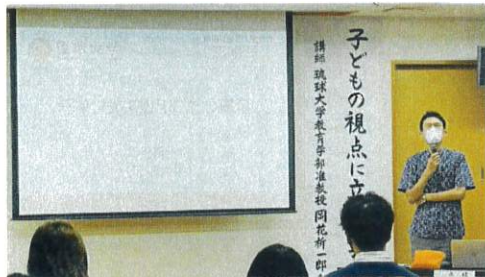
- ・保育者の膨大な事務量の見直し
- ・保育者の重複した内容の事務の見直し
- ・子ども理解(未熟な存在から有能な学びてとしての子ども理解)
- ・子ども達の育ちを保護者と共有する



※1 ポートフォリオ(個別成長記録)



※4 保育 Web 図式



※2 岡花祈一郎先生

### ○課題改善に向けての取り組み

- ・ICT化の導入
- ・web式での月案やクラスの話し合いを深める
- ・おたより帳の複写化
- ・多用途資料としてのポートフォリオ(個別成長記録)の定着(※1)  
(肯定的視点での子どもの姿の受け入れ)
- ・ボードフォリオ(子どもの学び、発見、育ちを共有するツール)の定着
- ・法人勉強会での外部講師依頼(※2, ※3)
- ・オンライン研修の積極的な導入
- ・素晴らしい実践を行う保育園の視察や映像の共有



※3 法人研修中の様子

### ○課題改善の中から見えてきたこと、令和4年度の取り組みへのバトン

令和3年度も、新型コロナウイルスの世界的な蔓延の一年となった。昨年同様、保育園でも日々新型コロナウイルスの対応に試行錯誤しながらも、子ども達ができるだけ通常の生活が送れるよう職員一同取り組んでいたように思う。

保育では「日々の子どもの姿をとらえ、保育者同士で語り合い翌日の保育を紡ぎだすこと」を目標に日々の生活を重視した保育を意識した。保育参観は直接園に保護者を招くことは出来なかったが、「てくてく」というお知らせ配信を活用して子ども達の普段の様子を動画や画像で配信し保護者に少しでも園での様子を知らせることが出来たと思う。おたより帳の複写化による保育日誌との一元化、ポートフォリオ(個別成長記録)を多用途で活用することで事務の簡素化を図ったことにより子ども達の姿を語り合う時間の捻出に繋がった。また、ポートフォリオの作成が「子ども理解」を考えるきっかけとなり、年に2回行う法人勉強会では琉球大学の准教授である岡花祈一郎先生の講義により「子どもの視点に立つ保育」の重要性についてより深く考える機会となった。保育園での子ども達の学び、発見、育ちを専門職としての視点を通したボードフォリオ(壁新聞)にすることで「保育の見える化」を行うツールになった。オンライン研修の積極的な導入では、普段は県外での開催の為参加が難しかった研修がオンラインでの開催になり、有名な講師陣の研修を積極的に受講できた。また、普段は1つの研修に多くても2名程の参加で、学びを園全体で共有することが研修の課題であったが、学びの深い内容の研修を全員で共有できたことは大きな収穫となった。研修後はその内容や意見を語り合うことでお互いの保育観や学びの共有ができたように思う。平成30年度から年に数園行っている保育園視察では、当初は素晴らしい実践を行う県内、県外の保育園の視察を予定していたが、コロナ禍での県外の保育園視察は断念し、コロナの状況を見ながら県内の保育園の視察を行ったり、法人勉強会で画像や動画を通して多様な保育を知る機会ともなった。改めて他園の保育に対する考え方や取り組みに触れることで自園の保育を考えることに繋がった。

以上のように非日常であった年で職員もそれぞれいろんな思いがある中でたくさん見直しを行えたのは、職員一人ひとりの理解があつてのことだったと振り返りながら思い、改めて職員一人ひとりが理解し実践してくれたことに感謝したい。

令和4年度は、引き続き法人勉強会にて「子ども理解」について深め、さらに「もっと保育を自由に」大人も子どもも笑顔になれる保育を目指していきたい。また複数人での対話の中から作るWEB図式(※4)を活用した保育計画の作成を行うことで保育者が子ども達の姿を対話しながら大人も子どももやりたいことが実現できるようにしていきたい。まだまだコロナ禍ではありますが、さらなる「保育の見える化」を行い保護者と共に子ども達の育ちに関わることに自覚と責任を持ち、専門職として保育を考え続ける保育者集団でありたい。